

行政視察報告書	(会派の場合) 会派の名称
	代表者氏名 荒井 直彦
	(会派以外の場合) 議員氏名
参加議員	中村 和雄 議員 議員
	議員 議員
	議員 議員
	議員 議員
日 程	令和5年5月22日(月)ー令和5年5月23日(火)
視 察 先	(1) 鹿児島県 環境林務部 廃棄物・リサイクル対策 本田課長・白坂主任・吉田参事・野口課長補佐
	(2) 鹿児島市環境局 環境部 環境衛生課 八松課長・高橋主幹・當山
	(3)
視察目的 (項目)	(1) ヤンバルトサカヤスデ対策について
	(2) 具体的な市民向けの対策について
	(3)
<p>【調査内容・概要】 荒井 直彦</p> <p>概要) 鹿児島県の広さは、南北の距離は600km、海岸線は2,722kmに及ぶ。本土・島嶼部(605個)を合わせた県域全体の面積は9,187 km²であり、全国の都道府県中10位。また、人口は約155万。</p> <p>1. 鹿児島県環境林務部 廃棄物・リサイクル対策課の視察では、事前に質問事項を提出し、現地にて対応・対策のお話を具体的に伺った。</p> <p>今回視察には、町の担当者と情報のすり合わせや神奈川県の対策を確認した上で実施。(質問事項と回答は、添付に記載。)</p> <p>対策は、駆除効果の高い薬剤(コイレットとミリペーダ)を開発し、現在に至る。また、鹿児島県民全体の告知には、リーフレットの他、民間のテレビ局で数分だが番組で放映をした実績があった。尚、そのビデオ(4分)を借りれるか調整中である。</p> <p>鹿児島県から頂いた資料は</p> <p>① ヤンバルトサカヤスデまん延防止対策について</p> <p>② 鹿児島県ヤンバルトサカヤスデ対策検討委員会</p>	

*令和4年11月22日の開催時の会議資料

- ③ 鹿児島県内各市町村のヤンバルトサカヤスデ対策事業費
- ④ 「ミエル、カゴシマ」ヤンバルトサカヤスデの防除対策番組の資料
- ⑤ ヤンバルトサカヤスデの防除対策 改訂版（令和4年3月発行）

概要) 鹿児島市は、鹿児島県の中部に位置する市であり、鹿児島県の県庁所在地及び最大の都市で、中核市に指定されている。人口は約59万。県民の3分の1（35%）が集中している。面積は547.58㎡。

2. 鹿児島市環境局 環境部 環境衛生課の視察でも事前に質問事項を提出し現地にて対応・対策を伺った。（質問事項と回答は、添付に記載。）

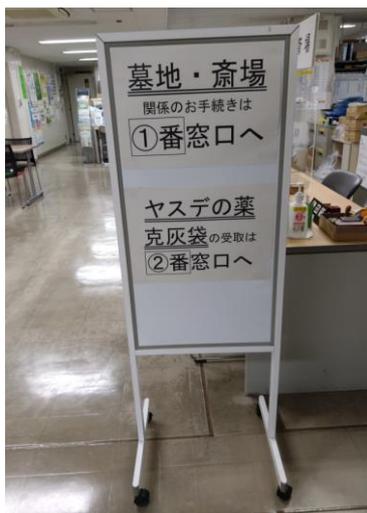
*ヤンバルトサカヤスデ対策連絡会議」を定期的実施している。

*当初、薬剤は コイレットだけを使用していたが、市民からの声でもう一つを用意（クリーンショット B）←もともと平成16年から市だけが使用していた薬剤

但し、市民に配布を開始したのは、令和4年度からで、昨年度は 同じ量を使用した実績であった。

鹿児島市から頂いた資料は

- ① 鹿児島市で取り扱いしているヤスデ用薬剤一欄（住化ンバイロメンタルサイエンス株式会社）
- ② コイレットのチラシ
- ③ 鹿児島市で作成された薬剤散布について（説明書）
- ④ 鹿児島市から提供している薬剤の使用方法（説明書）



(鹿児島市役所の案内表示)

ヤンバルトサカヤスデは台湾が原産で、わが国では 1983(昭和 58)年の沖縄での異常発生に始まる。その後北上し、1991(平成 3)年に奄美諸島の徳之島、1995(平成 7)年に徳島で生息が確認された。1999(平成 11)年に鹿児島県で大発生し、本土での本格的侵入が確認され今日に至っている。

《鹿児島県》

1 取り組みの経過及び体制等

- (1) 鹿児島県では、平成 6 年度に設置したヤスデまん延防止対策検討会の数回の改組を経て、平成 11 年度に「ヤンバルトサカヤスデ対策検討委員会」を設置し、大学や民間の研究者等を委員として現地調査や住民、造園・建設業者等に対する説明会を実施するなど、駆除対策、まん延防止対策を総合的に実施してきている。
- (2) 平成 15 年度からは、環境林務部、くらし保健福祉部、農政部、土木部の関係 13 課で構成する「ヤスデまん延防止対策庁内連絡会議」を設置して、まん延防止にかかる連絡調整を行っている。
- (3) 平成 16 年度からは県開発促進協議会が、地球温暖化対策の一環として「発生のメカニズムや影響の程度、効果的な駆除対策等」について、国による調査・研究、財政支援措置の充実を要望している。

2 具体的な対応策

(1)まん延防止のためのリーフレットの作成・配布

(一般向け：平成 13 年度～、事業者向け：平成 24 年度～)

餌となる落葉等の除去や下草払いなどの環境整備、家屋への侵入防止対策、土壌、堆肥、植木等の発生地域からの移動対策等を内容とするリーフレットを作成・配布し、普及啓発を図っている。

(2)駆除剤の開発

平成 9 年度に、県の研究機関と民間の製薬会社が連携し、環境への影響が少なく、駆除効果の高い殺虫剤(コイレット(駆除剤)、ミリペーダ(誘因駆除剤))を開発。

(3) 薬剤散布による水質への影響調査(平成 9 年度～)

散布薬剤の環境への影響を調査するため、河川水及び井戸水の水質調査を年 2 回実施。令和 4 年度までの調査結果では、すべて「公共用水域等にお

ける農薬の水質評価指針」等の指針値内で、異常は見られていない。

(4) ヤスデの効果的な駆除方法、生理・生態に関する調査・研究

「ヤンバルトサカヤスデ侵入防止泰作マニュアル」の作成(平成 27 年度)

ヤンバルトサカヤスデは平滑な面は移動できないという特徴に着目し、発生地域において表面が滑らかなアゼシートを利用した侵入防止効果を検証。その結果、住宅地や家屋への侵入防止対策として有効であることが確認できたため、マニュアルとして取りまとめた。

3 令和 5 年度予算

1, 582 千円 (令和 4 年度 1, 587 千円)

- 〔事業内容〕
- ・啓発用リーフレットの作成・配布
 - ・対策検討委員会、住民説明会等の開催
 - ・発生状況等確認調査の実施
 - ・侵入防止対策マニュアルの普及

4 市町村への支援等

- ・特別地方交付税措置

市町村が行う「薬剤散布等の駆除事業」について、平成 8 年度から特別交付税措置が講じられている。

※市町村の対策

1 薬剤散布及び山裾の草木の伐採などヤスデの棲みにくい環境の整備
(市町村の予算措置の内訳)

- ① 薬剤購入費の補助 ② 薬剤の無償配布 ③ 薬剤散布等の人件費
- ④ 駆除等委託

2 普及啓発

リーフレット等の配布、地区毎の説明会の開催等

5 説明者 環境林務部廃棄物・リサイクル対策課 技術主査 白坂邦三郎氏
同課 課長補佐兼一般廃棄物係長 野口 隆氏
《鹿児島市》

○鹿児島市の概要

- ・人口 593,128 人 世帯数 279,011 面積 547,58 m²
- ・一般会計予算(令和 5 年度) 278,872 百万円 (総予算 489,171 百万円)

1 ヤンバルトサカヤスデ対策関係予算

	平成 25 年 度	平成 26 年 度	平成 27 年 度	平成 28 年 度	平成 29 年 度
当初予 算	30,433	29,801	34,995	30,948	30,032
決算	29,562	31,558	34,801	30,087	28,696
	平成 30 年 度	令 和 元 年 度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
当初予 算	30,047	32,521	32,467	27,630	36,037
決算	29,952	32,186	34,921	39,757	27,137

経費項目 ・ 需用費(消耗品費)・・・ヤスデ駆除剤、噴霧機器材(※)等
 ・ 委託料(業務等委託料)・・・駆除業務委託(市道等公共施設のみ)
 (※) 噴霧器 電動式 10台(15ℓ)、手動式 10台(5ℓ、7ℓ)

2 ヤンバルトサカヤスデ対策連絡会議

ヤスデが発生しない環境づくり、情報共有のために設置。

(会長) 環境部長

(副会長) 環境衛生課長

(委員) 環境局(1課)、産業局(1課)、建設局(4課)、水道局(2課)、企画
 財政局(1課)、教育委員会(1課)、支所(発生区域 6支所)

※なお、ヤスデ対策に関する条例、計画等は定めていない。

3 市民向けの研修会・リーフレット

- ・ 希望団体に限り、市政出前トークを実施
- ・ ヤスデの生態に関するリーフレット及び駆除剤の散布方法に関するリーフレットを窓口で配布

4 薬剤の購入・配布及び噴霧機器材の貸出し

	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
薬剤購入費	21,036 千 円	30,890 千 円	25,532 千 円
コイレット(粒剤)	1,957 箱	3,500 箱	1,450 箱

クリーンショット B(微粒剤)	419 箱	400 箱	2,365 箱
薬剤配布数	11,202 袋	20,898 袋	5,502 袋
噴霧器貸出し台数(他害虫含む)	152 台	25 台	3 台

- ※1 コイレット 6袋/1箱、クリーンショットB 4袋/1箱
市民への配布数：月1袋・年間最大12袋
- ※2 年度間の違いは、降雨量の多寡等によって発生が増減するため。
- ※3 噴霧器については、令和2年度まで薬剤を入れて貸し出していたが、令和3年度から薬剤を自費としたために貸出し台数が減少している。

5 市民からの苦情

- ・薬剤の配布量が少ない
- ・薬剤の効果があまり期待できない
- ・薬剤散布後におけるヤスデの死骸除去が大変
- ・液体薬剤も無償配布して欲しい

6 説明者

環境局環境部 環境衛生課 課長 矢松 芳之氏
 環境衛生課 主幹 高橋 秀幸氏
 環境衛生課 堂山 直人氏

《所感》

- 1 一旦発生したヤスデの絶滅は不可能と考えるべきで、駆除をしても場所・地区を変えて発生し続けている。薬剤散布等による対症療法を継続する以外、現段階では方策がないと判断される。
- 2 今後、神奈川県でもまん延は不可避であり、県のリーダーシップのもと県下各自治体と連携した取り組みを進める必要がある。
- 3 さらに、国におけるヤスデ絶滅・まん延防止に向けた研究・開発、自治体への支援策を講じるよう、県を中心に首都圏からも要請行動を起こす必要がある。
- 4 本町においても鹿児島市のように、環境課だけでなく関係各課で情報を共有し、対策を講じる体制を構築する必要がある。

